

本試題是否可以使用計算機：可使用，不可使用（請命題老師勾選）

考試日期：0302，節次：4

1. 試將下列日文文獻譯為華文(25%)

大正の評論界はどうか。われらは、創作の盛衰が、評論のそれと連れ立つものだとの、一般の世論には容易に共鳴し得ないものだ。連れ立つもよし、連れ立たぬもよし、とにかく評論は評論で独立すべきだ。大正期は、概して評論が不振だといふのが、いつも作家達の口癖になつて居た。それなのに、一般芸術の拡がりとは深化は、それと関係無しに躍進したではないか。それと反対に、「月評」の素晴らしい繁昌は、おそらく大正期にはじめて見る不思議な現象であつたであらう。その方は注文どをりに、創作と並行した。

—千葉亀雄「大正文壇十五年史概説」、『文章倶楽部』第12巻第3号、1927年
（関口安義編『芥川龍之介研究資料集成第3巻』、18～19頁）より—

2. 試將下列日文文獻譯為華文(25%)

戦中の国民文学論は高倉テルの「日本国民文学の確立」（昭和11年8-9月）によって口火を切られた。この論文は国民文学論争の歴史の上でユニークな位置を占めるだけでなく、大衆文学の理論史からみても重要な問題提起を行ったものといえる。彼はその文章のなかではじめて体系的な読者論を展開し、文学大衆化の基礎となる国語・国字問題へ一矢を投じた。高倉は明治いごにおける日本文学の大衆化の経路を回顧し、読者層の編成変えがもたらした文学的な変貌をあとづけていた。

—尾崎秀樹『大衆文学』、紀伊国屋書店、1995年復刻版、153頁より—

3. 將以下的日文翻譯成中文。(25%)

「カルチュラル・スタディーズ（以下、CSと記す）は一種の厄介者として、二十世紀末の日本の知的風景の中に浮上してきた。八十年代までのマスコミュニケーション研究のなかでおとなしく受容されていたときはともかく、九十年代に人類学や文学研究、美術史、映画研究、歴史学、社会学などの異なる分野で横断的にCSが関心を集めるようになると、保守派からはもちろん、左翼からも、ポストモダン派の知識人からも、この得体の知れない動きに攻撃の矢が向けられてきた。

ある者は、この知を単なる国民国家批判の言説と解し、国家の問題に正面から向き合っていないと批判する。あるものは理論的なフレームの弱さを銜き、この知が対象の具体性に耽溺していると批判する。…」（資料出典：吉見俊哉編2004『カルチュラル・スタディーズ』講談社 p. 14）

4. 讀完以下的文章後，請敘述歷代政權原住民政策的異同，並針對今後原住民教育、觀光甚至到自治等的政策發展和傳統的保存之間所面臨的問題提出您的看法。(25%)

「撫墾署・辨務署時代の原住民教育について以下にまとめる。第一に撫墾署・辨務署は清代の撫墾局を参考にして設置されたが、清朝とは異なり、同署は原住民への恩威並行政策をとるとともに、原住民の日本人と「兄弟」であるという觀念を利用し、原住民を漢族と分離して統治。

（背面仍有題目，請繼續作答）

本試題是否可以使用計算機：可使用，不可使用（請命題老師勾選）

考試日期：0302・節次：4

教育した。第二に、特に「撫墾」とは「番地」を開発し、「番人」を調査し、原住民・漢族を取締って、特に樟腦業等重要資源を確保することであり、日本統治に都合よくするために原住民教育も行われた。第三に、撫墾署員・辨務署員が教育を担当したが、「番語」を研究して原住民との対話を可能にしながら、原住民に簡単な日本語、算数などを教え、さらに医療施策により、日本の高度な医療技術を知らしめ、日本に「帰順」させようとした。第四に教育は徳育、体育を第一とし、知育を第二とし、礼儀作法を教えた。原住民に高度な知育教育は不必要で、反日化の知識伝授につながると考えられていた。第五、原住民土目、優秀な「番童」を内地観光につれ、日本の軍事・教育・工業・農業技術水準の高さを知らしめ、日本への反抗の不可能性を自覚させ、また「誠首」など旧来の悪習慣をやめようという意識を醸成させるとともに、日本への憧れを抱かせ、さらに部落原住民に日本事情を宣伝させることによって台湾總督府の原住民統治を潤滑化しようとした。…」(松田吉郎著 2004『台湾原住民と日本語教育』晃洋書局 p.91)